

## バケツ苗の稲刈り

地域の農家からお借りした田んぼを「友情田」と名付けて、毎年5年生が田植えと稲刈りを体験しています。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、児童の体験はいずれも中止となってしまいました。その代わりに5年生は、友情田と同じ苗をいただいて、バケツで育ててきました。8月31日、友情田のお世話をしてくださっている辻角さんと山崎さんを招いて、バケツ苗の稲刈りをしました。

はじめに、辻角さんに米作りについて教えていただきました。1本の苗から約7本の葉が出て実を付けること、肥料のやり方で実の付き方が変わることなど専門的なことも教わりました。特に、実を多く収穫するために肥料をやりすぎてしまうと、実が多くついて稲が倒れやすくなり、コンバインでの収穫が大変になってしまうと聞いて、米作りの難しさも分かりました。

稲刈りの前に、鎌の使い方や稲株の持ち方などを教えていただきましたが、初めての稲刈りに挑戦する代表の児童は、力の入れ加減に戸惑い、手こずっていました。何とか稲株を切り取ることが出来ると、他の児童から拍手が沸き起こりました。全員が稲刈りを体験することは叶いませんが、みんなで植えて観察を続けてきた愛着あるバケツ苗の稲刈りだったので、クラスでの達成感は味わえたようです。

最後に、米作りについて質問をしました。水を抜く時期は、刈り取りの1ヶ月前で、田んぼから水を抜くことで根がはり、稲が丈夫になることを教わりました。また、山崎さんは、『米』の文字には、米作りに八十八の手間がかかる意味が込められ、苦労が多い米づくりですが、昔の人たちは工夫して取り組んできました」と話してくださいました。



説明してくださる  
辻角さんと山崎さん



代表児童が稲刈り



代表児童が稲刈り



米作りについて質問